

# 議会だより

2008.1.28

発行：福島県西会津町議会

編集：議会広報特別委員会

## にしあいづ No.100



今年もよい年でありますように

### 議会広報100号記念・新春特集号

## 町民と歩む活発な議会を目指して まちづくり基本条例可決される ここが聞きたい一般質問・4人が登壇

議会広報100号記念特集	2
平成20年新年のごあいさつ	5
12月定例会でまちづくり基本条例制定	6
委員会が先進地を視察	8
一般質問4人が登壇	9
教育委員・固定資産評価審査委員に同意	11
西高校長先生にインタビュー	12

議会広報100号  
記念特集



第1回発刊から24年目を迎えて

# 町民と歩む活発な議会を目指して

## 協働のまちづくりの先頭に

町民の声が響く議会に



議会広報特別委員会委員長 伊藤 勝

西会津町が昭和29年に誕生してから53年が経ちました。平成の大合併には参加せず自立の町を選択しました。こうした幾多の問題を乗り越えながら町はいま着実に進展しています。

議会も昭和59年の広報第一号発刊から100号を迎えました。その時々町の政の課題や議会の内容を

お知らせしてきましたが、このことは議会の責務であり、今後も町民に親しまれる広報としてさらに研さんしていきます。

これまでの24年間を節目に、町民の声が響く活発な議会を目指し、みんなで創る協働のまちづくりのために議会は先頭に立って取り組んでいきます。

### 昭和59年度一般会計当初予算

34億1600万円  
主な事業：さゆり公園プール整備

### 平成19年度一般会計当初予算

49億9200万円  
主な事業：西会津町縦貫道路



昭和63年 駅前通り



昭和60年 さゆり公園管理棟



昭和59年 さゆり公園プール完成

目で見る町  
のすがた



## 100号の発行にあたって

西会津町議会議長 大沼洋平

にしあいづ議会だよりは昭和59年5月の発刊からこの度、節目となりまして100号の発行となりました。これもひとえに、町民の皆様の温かいご支援の賜と深く感謝を申し上げます。

町では、ケーブルテレビを通し議会の審議状況を放送しておりますが、

さらに議会活動を分りやすく町民の皆様にお伝えして行くのが広報紙の役目と認識しております。今後とも充実した紙面づくりに努めてまいりますので変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。皆様のご健勝と本町の発展を祈念し、「ごあいさつ」といたします。



## 創刊100号を祝して

西会津町長 山口博綱

「にしあいづ議会だより」が創刊第100号を迎えられましたことに、心からお慶びを申し上げます。また創刊以来、これまで編集に関わりました議会広報特別委員会の皆様のご努力に対し、深甚なる敬意を表する次第であります。

本年4月「まちづくり

基本条例」が施行されます。町民・議会・行政の三者がそれぞれの役割を果たしながら、新しいまちづくりを協働の作業により築いて参りたいと考えております。今後とも、町議会の皆様方のご支援、ご理解をお願い申し上げます。創刊100号の祝辞といたします。

### その1 ケーブルテレビで議会を生放送

ケーブルテレビで議会定例会を生中継し、同日夜には再放送（カットなし）している。平成9年6月定例会から開始し、19年12月現在、42回続けている。

ケーブルテレビの放送開始により議会傍聴者は、導入前は一定例議会30〜50人程度あったが、最近ではほとんどいない状況である。

### その2 議員定数と議員

議員定数は、合併後から換算すると5回削減されている。

## オラが町議会の特徴

議員総数数は、現在まで121名となっている。一般質問者は昭和59年以降、のべ942人となっており、一定例会平均では9.8人となっている。

### その3 多くの特別委員会を設置

議会の特別委員会は、その時々々の政策や課題の調査ため設置されている。昭和59年以降に設置された主な特別委員会には、次のものがある。

西会津町町営スキー場適地調査特別委員会

（平成2年）  
異常天候による農作物等に関する調査特別委員会（平成6年）  
市町村合併に関する調査特別委員会（平成16年）

## 議員定数のあゆみ

	昭和59年	昭和62年	平成3年	平成7年	平成11年	平成15年	平成19年
町条例定数 (実際の定数)	22人	22人	20人	20人	18人	18人	14人
自治法定数	26人	26人	26人	26人	22人	18人	18人

自治法定数とは：  
地方自治法では都道府県や市町村ごと、またそれぞれ別の人口段階ごとに定数（上限）が定められています



平成14年 町民バス運行開始



平成9年 磐越道開通



平成3年 賑わひ大山まつり

# 100号を省みて この人に聞く 対談

議会広報創刊から今号で100号となりました。そこで第1号からこれまで議員として編集に携わってこられた方々に当時の議会の様子や思い出など、議長も交え、語っていただきました。

## 対談者の紹介

清野邦夫議員（9期）

議会議長・議会運営委員長等歴任

清野興一議員（9期）

総務・建設各常任委員長等歴任

大沼洋平議員（4期）

議会議長

伊藤勝議員（7期）

議会広報特別委員長

司会 議会広報が100号

となりました。創刊当時の昭和59年を思い出しながら議会や町政の様子などを語っていただきたいと思えます。

司会 初めて当選された時の思い出は。

清野邦 初当選した昭和50年当時の町長は山口博也さん、議長は星久さんでした。いずれも雲の上の人でしたな。



清野邦夫議員

清野興 私も同じ年が初当選でした。山口博也町長に「私ごとき若僧にお金の使い道や町政を批判され、腹も立っているでしょうね。」と聞いた

ら、町の金は、町民から預かったもの。町民が望むように使うのが私の役目。」とキツパリ答え、私の方が襟を正された思いでした。



清野興一議員

大沼 私の時は、山口博野町長と清野邦夫議長でした。初議会の議会構成の駆け引きには驚きました。

司会 当時の一般質問や議案質疑で思い出されることは。

清野邦 除雪に関することです。ブルの除雪が始まった当初は、町の大通りだけが対象でした。「医療機関や小学校通りの除雪を徹底的に行なうべきだ」と何度もたどりました。

清野興 私は星議長から「分からないことは何でも聞けよ。当選を重ね

ると恥が先に立ち聞けなくなるぞ。」といわれました。発言を保証する空気が議会全体にありました。

司会 あの頃は一般質問に時間制限がなく、先輩議員もおおらかでした。午前中ずっと一人で質問していたこともありました。後ろを見たら議員席に空席があつたりとか。

大沼 当時多くの質問者がいましたね。ケーブルテレビの中継もまだ始まっていなかったもので多くの傍聴者もいました。一般質問は出身地区に関する質問が多かったですね。



大沼洋平議長

司会 先輩議員に学んだことは。

清野興 公私の区別です。議会前は仲良く談笑していても、議場に入ると一変。議員の親族が請け負った事業が、期限ま

でに完成できず、違約金を取ることを議決したこともありました。その議員も立派で、議決後はサバサバしていました。

清野邦 議員の心構えですね。議会でけんかのごとく議論しても、議会が終われば元の友人に戻るといふ心の大きさを学びました。

司会 最後に町民に親しまれる広報づくりにアドバイスを。



司会 伊藤勝議員

清野興 議会や町政の様子を伝え、町民の声にどう応えるかが発刊の原点でした。町政の実態と町民が知りたいことを軸に特集記事を組んではどうでしょう。

清野邦 見やすい、読みやすい紙面に心がけてほしいですね。



元議長 三瓶尊徳さん  
昭和50年～平成15年 7期

## 先輩議員からのメッセージ

議会広報100号発刊おめでとございます。議会を離れて5年が経ちます。ケーブルテレビで議会の様子を拝見し、当時をよく思い出します。

私が初当選したのは昭和50年でした。その当時は、ほ場整備やさゆり公園などの整備を行なっていました。奥川の道路には奥川地区議員と区長で大挙して町長に陳情したものでした。

議長になってからは、議会全体を見ることと、議事進行には特に気を遣っていました。

町は今、少子高齢化で大変厳しい時期にあります。議員の皆さんの活躍を期待しています。そして、もつと自らを主張して頂きたいと思えます。

# 町民の皆様には希望に満ちた新春を

## 迎えられたことと、心からお慶びを申し上げます



「ヨイショ」新春鏡開き

### 輝き魅力あるまちづくり

まちづくり基本条例施行初年度！自立元年！

西会津町は平成16年9月の「自立宣言」を機に、「まちづくり基本条例」を本年に施行することとしております。

議会におきましては、昨年6月の町議会議員の改選で、議員定数4人減となる14人の議員が誕生し、新しい議会体制の下で、議員自ら研さんを重ね、職責を全うして参る所存であります。

私も町議会議員は、この改革の新しい年を「自立元年」と位置付け、心を新たに町民の皆さんと共に、輝き魅力ある西会津町の実現に向け、一生懸命努力して参る覚悟であります。

本年もより一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。  
町議会議員一同

### 正月行事

西会津町で行なわれている正月・小正月行事を紹介します。

#### 団子さし

小正月に豊作や一家繁栄などの願いを込めて行なわれる。



尾野本保育所の団子さし



7町内のサイノカミ

#### サイノカミ

サイノカミは、町内各自治区で行なわれている。小正月にしめ縄や門松などを燃やし、一年間の無事安泰を願って行なわれる。以前は1月15日に行なわれていたが、現在では、祝日の法改正により15日に行なわない地区も多い。

#### 野沢の初市

江戸時代の初期、野沢の市は3と8が付く日に行なうことを藩から許可されていた。年の初めの市は、1月13日に行なわれており、現在の初市の起源となっている。野沢の初市は荒れた天候が多いといわれ、今年も風雪が強い日であった。



縁起物などを売っている

# まちづくり基本条例を決める

一般会計補正4081万円を増額 総額51億769万円

## 12月 定例会

### まちづくり基本条例4月スタート

関係条例改正は3月定例会で

12月議会定例会は、12月7日から12日までの6日間の日程で開かれました。今定例会では、まちづくり基本条例案が提案され、原案のとおり可決されました。これに伴う関係条例の改正については、次回の3月定例会に提案され、4月からスタートすることになりました。一般質問は、4人が登壇しました。

### まちづくり基本条例

まちづくり委員会が2年4ヶ月にわたり取り組んできた「まちづくり基本条例案」は一字一句修正することなく、議案として提出されました。

議案の構成は、まちづくりの基本理念を掲げた前文から全部で11章32条からなっています。

また、まちづくりの基本原則や主体である町民・議会・行政の役割や責務、町民参加や情報公開などが盛り込まれています。



まちづくり基本条例案を手渡す新田会長

本基本条例に伴う関係条例の改正は、次回の3月定例会に提案され、4月からスタートします。

### 質疑

問 基本条例の各章に「別に定める」とある。これは、町の機関で作るのか。

答 この条例が可決した後、町民説明会はあるか。来年度の予算編成にどう活かされるか。

まちづくり政策室長 運用に関する手続きであり、執行機関で作成する。



発表するグループリーダー

説明会を各地区で行なう予定である。

3月の予算編成時に事務事業を見直し、できるものから新年度4月より実施する。

問 今までのまちづくりは町長主導で行なってきた。なぜ今協働によるまちづくりなのか。行政を取り巻く環境が厳しくなったからか。

町長 基本的な面で理解されていない。新しいまちづくりのため、皆で努力し、生まれ変わるうとしてきたのが本基本条例である。

### 討論

反対討論 長谷川徳喜

本基本条例には、将来のビジョンが示されていない。町は限界集落などの不安を抱えている。この問題を町民に転嫁するのは無責任である。

賛成討論 清野 邦夫

この基本条例は、自立のまちづくりをどう進めるかの理念である。協働で特色あるまちづくりをしていくことが大切である。

### 採決の結果

賛成11、反対1、棄権1で可決！

# 町が雇用促進住宅2棟を取得

8976万円で 4月から利用開始

1棟は町営住宅(30戸) 1棟は一般住宅(30戸)

## 補正予算



取得する雇用促進住宅

## 質疑

問 雇用促進住宅のリアフリー化を考えているか。

問 雇用促進住宅の取得財源の一部として財政

**地域整備課長**  
高齢者など生活弱者は低い階にするなどの対応をしたい。

補正予算の主な内容は、西林東地区にある雇用促進住宅2棟を独立行政法人雇用能力開発機構から取得する費用として8976万円、医師住宅の新築費用として3800万円、職員給与の改定に伴う経費などです。一般会計では、4081万円を増額し、現在の総額は、51億769万円となりました。なお、財源としては、国庫支出金や財政調整基金が充てられます。

調整基金を充てている。災害時等に支障はないか。

**総務税政課長**  
基金を使用しても1億円以上は残る。町民生活に影響はない。

問 ケーブルテレビ運営費で3600万円減額している。この理由は。

**町民情報課長**  
デジタル放送化に伴う事業で実施予定であった情報カメラの導入は、伝送路改修時に行なうこととした。また、同舎内にあるデジタル化用機器導入時の入札差金である。

## その他議案

### 会津坂下町まで町民バス運行

町では、県立西会津高校分校化対策の一環として、会津坂下町との間に町民バスの運行を計画しています。今定例会には、通学定期券の料金を減額



「よりっせ」ミネラル野菜販売コーナー

### 道の駅よりっせ 指定管理者に町振興公社

する条例案が提出され、可決しました。質疑では、通学者だけでなく、通勤者の減額改定もすべきとの意見があり、町からは検討する旨の答弁がありました。

なお、会津坂下町間のバスの運行コースについては、検討中となっています。

新通学定期料金(1ヶ月)  
100円区間：1800円  
200円区間：3600円

西会津町地域資源活用総合交流物産館(よりっせ)の管理について、本年4月から指定管理者制度を導入することになりました。その指定管理者には、株式会社西会津町振興公社が指定されました。

# 常任委員会 管外行政調査

## 総務

総務常任委員会は、「自立」と「協働」のまちづくりに取り組んでいる宮城県色麻町（しかもちょう）と山形県最上町の2町を視察した。

（1）色麻町のまちづくりの基本構想は、町の指針となる長期総合計画を策定するため、町民の代表者60人で構成するまちづくり委員会の参画のもとに、2年の歳月を費やして作成された。

この計画は、いかに効率の良い行政運営ができるかを主眼とし、全事務事業の評価を毎年行い、住民に的確な情報開示をすることとしている。

（2）最上町は「健康に勝る幸せなし」との基本理念から、保健・医療・

福祉の整備を進めてきた。地域と行政の「協働」という考えのもとで、新しい形の「福祉でまちづくり」を推進している。また、地域コミュニティ再生に向けたシステムづくりを「地域福祉計画」の中で取り入れ、2年間にわたって策定された。

本町も、ゆとりと豊かさがある社会、特色あるまちづくりを創造するため「西会津町まちづくり基本条例案」が策定された。

議会も認識を新たに町の推進力となつて努力を図っていかなければならない。



協働のまちづくりを研修

## 経済

経済常任委員会は、次の町村を視察した。

（1）新潟県川口町：地震等大規模災害への対応について

当村は、平成16年10月に発生した新潟県中越地震の震源地となった村である。その地震では、多数の死傷者があり、（死者6名、重軽傷者62人）村内の建物の99.6%が全壊、半壊等の被害を受けた。また、道路の寸断があり、広範囲に大規模な被害が発生した。

そのような地震災害では即座に村内全域を行政のみで対応することは困難なことから、地域内の自主防災組織づくりが必要との話があり、本町でもその必要性を感じた。



新潟県中越地震の震源地を視察

（2）群馬県昭和村：農業振興について

当村は、首都圏まで車で1時間程の位置にあり、こんにゃく芋の生産量が全国2位である。農家1戸当たりの年間の農業所得は550万円となっており、儲かる農業を実践している。

本町の米作においては、ミネラル米の販路の拡大、農機具の共同利用化・中山間や農地・水事業の活用によるコスト削減が必要である。また、ミネラル野菜については、耐雪型パイプハウスの取り組み強化と生産量・販路の拡大が必要である。

いっぱい質問

# まちの考えを問う

## 質問項目一覧（質問順）

### 青木照夫議員

- 納税について
- 小規模多機能施設について
- AED（自動体外式除細動器）について
- C型肝炎ウイルス（HCV）について

### 五十嵐忠比古議員

- 滝坂地すべりと銚子の口の観光開発について
- サル被害対策の現況と効果について

### 伊藤勝議員

- 来年度の財政と政策課題について
- 後期高齢者医療制度について
- 子育て支援事業について
- 橋梁の整備について

### 清野興一議員

- 農地・水・環境保全向上対策事業について
- 米価の下落について
- 原油高騰対策について
- 来年度予算編成の基本方針について

問 今年度の異常な原油高はあらゆる面で国民

問 今年度から始まった「農地・水・環境保全向上対策事業」は多くの自治区で実施されたが、事業量に比べ、事業費が少ない。また、町道の維持・管理は町の責任で行なうべきではないか。

**経済振興課長**  
今年度の水・土・里（みどり）事業の実績は、基本事業で1020万円、重点事業で1350万円を実施し、秋作業後の事業の精算事務を進めているところである。

また、本来町が行うべき町道の維持管理は、町が行う。

来年度については、水・土・里委員会にて調整を図りながら進めていく。

問 生活を圧迫している。「生活弱者」といわれる世帯に灯油購入補助を実施する考えはないか。

**健康福祉課長**  
生活弱者世帯の生活支援策については、生活保護世帯では、11月から3

農地・水・環境保全事業はどう見直すか  
町内全域でにしいづ水・土・里委員会で対応

清野興一 議員



協働による水・土・里事業

月まで冬季加算額があり、一世帯で月額8960円支給されている。また、歳末たすけあい義援金も配分されている。

町独自の新たな生活支援策は現在のところ考えていない。

# 小規多機能居宅介護は

# 登録ヘルパーの在宅支援で

青木 照夫 議員

問 介護保険見直しで国は施設整備を中止し、団塊世代の老人増加を想定した小規模多機能居宅介護が制度化される。経済的理由で施設に入れない方入所したくても順番待ちで入れない高齢者の不安をどう考えるか。

健康福祉課長

小規模多機能居宅介護は、地域密着型サービスで、利用者の状態や希望に応じて随時「訪問」や「泊まり」を組み合わせて在宅での支援を行なうものである。本町ではこのサービスは実施していないが、町単独事業として、町福祉会の登録ヘルパーで在宅支援をしている。

問 AED（自動体外式除細動器）は誰でも使

えるようになった。今後町では各施設に設置する予定か。

健康福祉課長

町にあるAEDは6台である。AEDは全ての心肺停止に対して万端で

はなく、心肺蘇生の手段である。消防署の協力により、AEDや救命救急について広く啓発に努め、公共施設への設置を検討したい。



ホームヘルパー養成講座の実習

## 橋の維持補修をどうする

## 補助事業を導入して取り組む

伊藤 勝 議員

問 町道橋梁の維持補修を必要とする橋の数は塗装や修繕などの対応や予算措置はとられているか。

地域整備課長

町の橋梁台帳に搭載されている数は172基であり、老朽化が進行し維持補修が必要な橋梁は50基程度である。国の橋梁長寿命化修繕計画策定事業を導入し、点検・修繕計画を策定する。緊急性が高い箇所から順次補助事業等を導入し、修繕・補修に



さびついた橋げた

取り組む。

問 来年度の財政と政策課題は。

（1）地方交付税の見直し。

（2）雇用対策として企業誘致委員会を立ち上げる考えはないか。

（3）二地域居住や農家民泊に対する支援体制は。

総務税政課長

（1）普通交付税で約1億円、臨時財政対策債で約2600万円減額の見込み。

経済振興課長

（2）「会津地域産業活性化協議会」との連携を図る。また、既存企業と連携を深め企業の進出と雇用の確保、誘致の環境整備に努める。新たな委員会の組織化は考えていない。

町長

（3）施設整備や情報提供だけでなく、芸術・IT関係などとの幅広い交流事業や団塊世代等の受け入れのための条例整備や政策などに新たな視点での組織を考えたい。

## 滝坂地すべりと銚子の口を観光開発に

### 地域活性化に結びつく観光開発

五十嵐 忠比古 議員

も安定し、安全も確保されることから、国との協議の中では、優れた景観を資源とした自然公園等として活用したい旨の話もある。地域の活性化に結びつく観光開発を考えたい。

問 サル被害対策は、ほぼ全町域をあげての問題である。有害鳥獣被害対策として進めてきた補

助事業の実績とその効果はいかほどか。

経済振興課長

今年度の補助実績は、電気柵導入が15件、補助金額は72万5900円である。防除効果を高めることと経費負担を抑えるために、地域共同で取り組むことを呼びかけている。導入後は被害が軽減したとの報告を受けている。



町の観光資源「銚子の口」

問 滝坂地すべりは、国内最大クラスの規模であり、国直轄事業で工事が進められている。地すべり区域末端下流には、銚子の口という観光名所がある。  
地すべりと銚子の口を併せ観光整備を行なうてはどうか。  
町長

同地区の対策事業の進捗率は60%であり、今後10年間は事業が継続される。事業完了後は、地盤

## 請願 陳情

12月定例会において、陳情1件を採択しました。  
また、意見書2件を内閣総理大臣等政府関係機関などに提出しました。

### 採択した陳情

(敬称略)

「公的保育制度の堅持・拡充、保育・学童保育・子育て支援予算の大幅増額」を求める意見書提出の陳情書

提出者  
福島県保育連絡会  
世話人代表 大宮勇雄

### 提出した意見書

「公的保育制度の堅持・拡充、保育・学童保育・子育て支援予算の大幅

増額」を求める意見書

内容

保育・学童保育・子育て支援に関する次の項目の具体化を求めるもの。

1 現行保育制度を堅持・拡充し、直接入所方式や直接補助方式を導入しないこと。

2 保育所最低基準、幼稚園設置基準を堅持し、抜本的に改善すること。

3 保育所、幼稚園、学童保育、子育て支援施設関連予算を大幅に増額すること。

4 子育てに関わる保護者負担を軽減し、労働時間の短縮など仕事と子育ての両立のための環境整備を進めること。

教科書検定に関する意見書

内容

文部科学省による高校の歴史教科書検定により、沖縄戦の集団自決に関して日本軍による命令・強制・誘導等があった旨の表現を削除する検定意見が出されたことから、その意見の撤回を求めたもの。

## 教育委員会 委員に同意

任期満了による教育委員会委員の任命について次の方の再任を全会一致で同意しました。

佐藤 晃さん(上野尻)

## 固定資産評価審査委員会 委員に同意

任期満了による固定資産評価審査委員会委員の選任について次の方々を全会一致で同意しました。  
委員会は3人で構成し、固定資産評価額に対する不服申し立ての審査などを行います。

齋藤宏一さん(3町内)

伊勢重文雄さん(下小島)

佐藤勝司さん(白坂)

このコーナーでは、各方面で活躍されている町民の方々等をインタビューを通して紹介します。今回は、**県立西会津高校の原田宏明校長先生**です。

**昨年、西会津高校に赴任されたときの第一印象は。**

引越しの日に野球部員たちが訪ねて来ました。その挨拶と態度に感激しました。今どきこんなに純粋な高校生がいるとは。

**初めての大きな仕事で、西会津高校存続のお仕事でした。これまでの感想は。**

多くの方が本校のために尽力してくださり、感謝しています。県立高校の存続は実は町の存続と



赴任して9カ月の原田校長

**プロフィール**

出身地：郡山市  
 生年月日：昭和27年1月8日（56歳）  
 家族構成：妻・二男・一女  
 趣味・その他：フルート演奏・写真・カメラ

も密接な関係があります。今後とも、ご支援をお願いいたします。

**生徒の皆さんに何を望まれますか。**

西高は本当にいい学校です。西高で学んでいることに誇りを持ち、胸を張ってほしい。

**今後してみたいことは。**

できれば、以前のよう

にオーケストラ活動をしてい

**町議会や町政に対する要望などがありますか。**

経済的な問題で、学ぶことを断念してしまう子どもが増えないよう、支援していただきたい。

**ご協力ありがとうございました。今後のご活躍を願っております。**

**議会の動き**

**福島県町村議会議員研修会に参加**

福島県町村議会議長会主催の福島県町村議会議員研修会が去る11月12日、郡山市の「ビックパレットふくしま」において開

催されました。

研修会では、東京大学大学院教授の神野直彦氏による「地方分権改革と地域格差」とテレビ朝日キャスターの三反園訓氏による「これからの政局展望を探る」と題した講演が行なわれました。

神野氏はグローバルゼーションがもたらす格差や地域間格差と地域内格差が同時進行している現状などの話をされました。



講演する三反園キャスター

**編集後記**

町民の皆さま、新年明けましておめでとございます。

今号は、創刊以来100号の記念号にあたります。今まで携わってくださいました諸先輩方に敬意と感謝を申し上げます。

昨年12月には、「まちづくり基本条例案」を本議会で可決し、いよいよ来年度からは自立元年として、全町民一丸となつて、基本条例に沿つた町の建設にまい進する覚悟を持たなければならぬと思います。

100号の発刊にあたり、さらなる町民各位のご協力、ご指導をお願い申し上げます。

(目黒 一)

- 編集委員
- 委員長 伊藤 勝
- 副委員長 荒海 清隆
- 委員 目黒 一
- 委員 多賀 剛
- 委員 武藤 道廣

**にしあいづ議会だより**

No. 100

発行 福島県西会津町議会  
 編集 議会広報特別委員会

〒969-4495 福島県耶麻郡西会津町野沢字  
 下小屋上乙3261  
 ☎0241-454537